

はつらつ 宮っこ

ID 1008394

砂上の「兄弟」 対決を制し 全国大会連覇



1



3



4



5



2

1 左から、関澤さん、齋藤さん、畑野さん 2 第4回全国U-12ビーチサッカーフェスティバルにて 3 齋藤さん(左側、黄緑色のユニフォーム) 4 畑野さん(右端、上下黄緑色のユニフォーム) 5 関澤さん(中央、上下黄緑色のユニフォーム)

豊郷中学校1年 齋藤 仁我さん
豊郷中学校1年 畑野 由樹さん
茂木中学校1年 関澤 輝さん

プロフィール

3月まで市内の小学生を中心に活動するサッカークラブ「ISO SOCCER CLUB」(ISO SC)に所属。第4回全国 U-12ビーチサッカーフェスティバルで優勝し、昨年に続いて連覇を果たした。昨年の優勝により、ISO SCは令和7年度うつのみや市民賞を受賞している。

3月に愛知県で行われた、「第4回全国U-12ビーチサッカーフェスティバル」。市内で活動するサッカークラブISO SCの小学6年生で構成されるチームが優勝し、同大会を二連覇、小学5年生で構成されるチームが準優勝を果たしました。全国から地方予選を勝ち進んだ強豪全16チームが出場する中、決勝はISO SCの「兄弟」チーム対決となりました。

ビーチサッカーは、通常の小学生のサッカーコートほぼ半分に当たる縦37m×横28mの、全面が砂のピッチ上で、5人対5人の2チームが対戦し、1試合当たり12分×3ピリオドの計36分間で勝敗を競います。

優勝について、大会MVPにも輝いたキャプテンの齋藤さんは「チーム全員が一丸となって勝利を目指した結果」と胸を張ります。チーム内で最多得点を挙げた畑野さんは勝利の秘訣について「週5回の普段の練習から走り込みを多く行っているのが、最後まで全員で走りきれた」と分析します。副キャプテンの関澤さんは「13人のチームメンバーで交代しながら戦えたため、他チームをスタミナ面で上回れた。以前の大会で5年生

チームに敗れた経験もあり、今回こそは負けられない、という思いが強かった」と語ります。

ビーチサッカーの魅力について、齋藤さんは「通常のサッカーより、オーバーヘッドキックなどのアクロバティックな技がしやすく、実際に得点につながる」と笑顔を見せます。

ISO SCを運営するビーチサッカー元日本代表の磯裕章監督は「宇都宮から世界へ、をクラブの目標として掲げ、サッカーやフットサル、ビーチサッカーをそれぞれのシーズンに合わせて練習している。子どもたちの将来の選択肢を増やす育成のため、最初から道を一本に絞らない環境を用意している」と語ります。

現在、齋藤さんと関澤さんは栃木SCのU-13、畑野さんはユニオンSCにそれぞれ所属し、サッカーを続けています。今後の目標について齋藤さんは「日本代表になること」畑野さんと関澤さんは「プロになること」と力強い眼差しで語ります。

世界、プロという大きな目標に向かい、それぞれの道を走る3人。芝や砂のフィールドにとらわれず、その先にあるゴールを見据えます。